

■ 兵庫県丹波市の地域再生・交流拠点「関西大学佐治スタジオ」 ■
「平成27年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」
文部科学大臣賞を受賞
～ 空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動を推進 ～

このたび、関西大学佐治スタジオでの「地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動」が、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会による平成27年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の文部科学大臣賞を受賞しました。

本表彰は、3R（発生抑制：リデュース、再使用：リユース、再資源化：リサイクル）に取り組み、顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会が表彰するというものです。1992年から始まり今年で24回目を迎え、環境・3R分野の表彰としては日本でも有数の規模を誇ります。今年度は全国から137件の推薦案件が寄せられ、各大臣賞13件、会長賞62件が表彰されました。

今回受賞した「地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動」では、兵庫県丹波市にある関西大学佐治スタジオを中心として、空き家リノベーションによる若者と地域への教育効果、地域活性化、健全な次世代型まちづくりへの貢献をテーマに、大学と地域が協働し、継続的に空き家の改修と活用に取り組んでいます。

空き家リノベーションプログラムの実施によって、廃棄物の削減、省資源・省エネルギー、環境保全効果が得られるとともに、地域が直面するさまざまな課題に対して協働と参画による地域再生を担う人材を育成します。

つきましては、本取り組みを通じて「地域活性化」「大学と地域の協働」「交流拠点の活用」の現場をご覧いただくことができますので、ご多忙のところ恐縮ですが、取材についてご検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

【受賞内容】

- (1) 受賞名：平成27年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 文部科学大臣賞
- (2) 受賞件名：地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動
- (3) 受賞者：学校法人関西大学

以上



佐治スタジオ室長の出町慎氏



佐治スタジオの外観

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel. 06-6368-1131 Fax. 06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



■「地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践と住民による空き家活用活動」概要

<関わり続けるという定住のカタチ>

2006年10月、兵庫県丹波市青垣町佐治を舞台に実施された日本建築学会近畿支部設計競技「シナリオ丹波」において、本学環境都市工学部建築学科建築環境デザイン研究室（指導教員：江川直樹教授）の学生グループによる「地域に増え続ける空き家を利活用した大学と地域の協働によるまちづくり」の提案が丹波市長賞を受賞しました。これを受けて、2007年7月に本学と丹波市が連携協定を締結し、「関わり続けるという定住のカタチ」と「21世紀の故郷づくり」をテーマに、空き家リノベーションを軸とした農山村集落の地域再生に向けた取り組みが始まりました。

<空き家リノベーション>

本取り組みでは、地元大工の指導による学生主体の空き家リノベーション、森林資源の豊富な地域特性を生かした地元産材（杉）の使用、時間をかけて行うしっかりとした議論といった空き家改修の手法を用いながら、空き家単体の改修という目的を越え、改修プロセスを通じて地域が抱えるさまざまな課題を顕在化し、大学と地域の協働による「地域再生・交流拠点としての空き家リノベーションの実践」を目的としています。

「平成25年度住宅・土地統計調査（速報集計結果）」（総務省統計局）によると、平成5年には448万戸だった空き家はその後一貫して増え続け、平成25年には820万戸、空き家率は13.5%に達しています。このような状況の中、空き家リノベーションの実践は3Rを推進するだけでなく、過疎化や高齢化といった地域が抱える課題解決に向けた取り組みとしても重要であると考えています。



改修に取り組む学生



地元大工の指導を受ける学生

<空き家活用サークル「佐治倶楽部」による活動>

2011年1月、地域住民が主体となり、大学と協働しながら空き家の維持管理・活用を実践していくサークル「佐治倶楽部」が立ち上がりました。空き家リノベーションで整備した空き家を活用し、大学と地域の交流拠点の運営やコミュニティビジネス創出に向けたカフェなどのお試し営業、趣味や特技を生かした習い事教室といったさまざまな活動を企画・実践しています。空き家の活用活動の実践によって、地域の課題として捉えられている空き家が、地域の活性化に資する有効な資源として評価され始めています。また、会の運営に関する主な事業収入は、本学からの佐治スタジオ管理運営の業務委託費、会員の年会費（年間3,000円）、施設の使用料などで、自立的な運営に向けた仕組み作りを展開しています。

<「関西大学佐治スタジオ」「本町の家」の活用>

「関西大学佐治スタジオ」は、学生による空き家リノベーションを経て2008年3月に竣工し、大学（都市・学生）と地域の交流拠点（授業・ワークキャンプ等）として主に利用されています。また佐治倶楽部の事務局も施設内に置かれており、大学と現地をつなぐコーディネーター的役割を担っています。

「本町の家」は、コミュニティビジネスの拠点として主に利用されており、現在は2階部分を若い世代や都市部の住民が安価で滞在できるゲストハウスとして整備することを目指し、検討を重ねています。



「本町の家」内部

<大学と地域の協働による取り組みへの移行>

取り組みスタート時は大学が主体となり地域と協働しながら空き家の改修活用の実践を行ってきましたが、2011年の佐治倶楽部立ち上げ以降、地域が主体的に空き家の改修や活用に取り組み、これを大学が支援するという体制に漸進的に移行しています。活動当初から、大学と協働しながら、将来的に地域が主体となって自立的に空き家を活用した活動を展開していく仕組みを検討してきた結果であり、補助金ありきでなく、空き家を活用した事業収入や会員の年会費などで自主財源を確保し、自律的な運営を目指しています。現在では、空き家（本町の家）の維持管理費や改修費用も自主財源で捻出しており、ここで得られた拠点運営のノウハウは他地域でも生かされ始めています。



学生・地元住民による打合せの様子

<学生と地域の協働による主体的な取り組みへ>

2012年、空き家リノベーションに参加していた学生を中心に、主体的に地域と連携し、地域が抱える課題の解決に向かって協働しながら活動を行う団体「丹波企画部」が立ち上がりました。空き家リノベーションへの参加のみならず、地域と協働した里山整備や利用頻度が少なくなった公園の再生といった活動にも取り組んでいます。空き家リノベーション等現地での滞在型活動が、地域と協働しながら地域再生に取り組む人材の育成につながっています。

<多世代の協働による地域再生につながる「意識・モチベーションUP」>

空き家リノベーションプログラムや滞在型講座など佐治スタジオを拠点に展開される活動は、地域内での多世代が協働する機会を創出しています。大学を持たない丹波市にとって、若いエネルギーと行動力を持った大学生が地域と協働することは、まちづくりを進める上で大きな推進力となっています。また、高校生や中学生の若い世代と自治会の役員世代との間に入って、多世代の協働を推進しており、地域再生につながる「意識やモチベーション」を向上させる重要な役割を担っています。



地元の高校生との共同プロジェクト

<地産地消の実践>

空き家リノベーションにおける、地元木材（杉）の利用による地産地消はもちろんのこと、佐治倶楽部による空き家活用活動の中でも、地元食材を使ったカフェや地元木材を利用した木工教室など地産地消を意識した取り組みが増えてきています。空き家リノベーションにおいてテーマの一つとした「地産地消の実践」が、空間的手法を越えて、空き家の活用手法のテーマとしても定着しつつあることが分かります。



丹波市「愛宕祭」に参画



地域活性化活動のひとつ「棚田 88 物語 Project」